



ESC情報

秋季号



日々の備え

9月6日未明の地震、その後の停電。全道ブラックアウトとなりました。前日の台風の通過で一安心していたところに予想外の出来事が起こってしまいました。

皆さまはご無事であったでしょうか。また、親族の方々や友人知人など被害に遭われた方も多かったのではないかと思います。お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被害に遭われた方の早期の回復や家屋等の復旧をお祈り申し上げます。

弊社の9月6日から8日にかけての状況をざっとですがお知らせします。

地震の直後に私の自宅は停電となり、給水ポンプも停止したため水道も止まってしまいました。ただ、室内に大きな被害はなかったため、程なくして会社の被害状況を確認しに向かいました。

社屋外観は無事に見えましたが、屋内はどうかと思うと少々不安でした。

懐中電灯を持ち社内を見回ると、落下や転倒している盤や製品などは無く、多少の落下物はあったものの、設備にも大きな被害が無いことは確認できました。しかし、電気が無くては社員に出勤してもらっても業務を遂行することができない為、役職者を通じて自宅待機の連絡を電話でお願いしました。

7時過ぎには役職者が出勤し始め、現場で使う小型発電機を稼働させて電話交換機を活かし、お客様からの電話対応ができるよう始業時間前までに準備を整えました。この日はこの体制(役職者と一部社員)で定時まで営業致しました。

翌7日もほぼ同様で社員は基本的に自宅待機とし、役職者と一部社員のみ出勤しました。この日は発電機をもう一台稼働させ、サーバも活かし一定程度通常に近い業務ができる体制をとりました。一部の社員には電話呼び出しを行い、お客様から依頼の現地設備の点検作業等を行っていただきました。この日も定時まで営業致しました。

この日の夜10時過ぎに社屋の電気も復旧し、8日朝には社屋の再確認(搬入口のシャッターの動作確認など)やサーバの稼働状況確認を行い、週明け10日には無事通常営業となりました。

皆さまもそれぞれにこの数日間は大変であったと思います。また、改めて電気のありがたみを痛感致しました。

地震を想定していたわけではありませんが、日々の備えと責任感のある社員、また早期に停電復旧に尽力いただいた北海道電力殿のおかげでこの数日間を無事に乗り切ることができました。

そうそうあることではありませんが、今後も不測の事態に対応できる準備を行うようにしていきます。被害に遭われた方々の早期の回復・復旧を改めてお祈り申し上げます。



代表取締役 向井 潔



ボトルネック



ボトルネックはご存じの通り「瓶の首」のことです。

殆ど誰でも知っていることであり、瓶では一番弱い細い部分です。これは外見を見ても誰でもすぐ分かり、弱くて折れやすい部分です。ならば全部太くしては如何でしょうか・・・注ぐのには細い方が注ぎやすい。

栓を閉めるにも適切に細い方が閉めやすい。従って瓶は世界中、どこでも注ぎ口は細くなっている。勿論外観の美しさ、機能美も備わっていることも大切です。



取締役相談役 向井 隆

しかし、瓶の首は弱い。この弱いところを総じて他のことでも一番弱いところを「ボトルネック」と言っています。

日常使う機械や工具でも壊れやすいところがありますが、それ以外の動物、人間でも首の部分は衝撃に弱く頭と共に保護する必要があります。

ボトルネックは機械、動物以外にも多くの物にもあります。知識や能力、技能で不得手なもの、また、不得手なものでも時間と共に変化する場合があります。

弱いところがあっても良いと思います。弱いところが無い機械も人間もあり得ません。弱いところを承知して他の人や器具で適切に助け合って目的を達成するのが良いと思います。

この度の地震でも評論家の方々がメディアでいろいろな事を発表していますが、言論の自由が認められる日本は素晴らしいと思います。

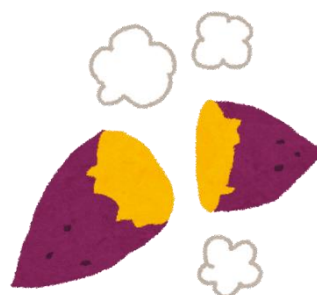
しかし、個人でも会社や社会でも「完璧」なものはありません。小説、ドラマによくありますが十分準備して行動しようとしている時に別の事態が発生して大変な事になる場合があります。

このようなとき貴方なら如何しますか？ やはりよく見守ってあげ、必要な場合は助けてあげるべきでしょう。他人の弱いところ、失敗は目につきやすいものです。

しかし、誰でもどこでも弱いところがあります。お互いに助け合って良い社会を作っていきたいですね。

私の会社にもそれぞれを得意とする人達で構成されています。この貴重な人材を組み合わせるボトルネックを補完して有意義な成果を発揮していきたいものです。

今年も残り少なくなりました。お互いに助け合いながら良い思い出が残るように仕事を進めましょう。





発変電工事技術研究会 疑似体験型講習会について



8月27日に発変電工事技術研究会殿が主催される疑似体験型講習が開催され、弊社からは私を含む4名が参加させていただきました。

この疑似体験型講習会は、日常の業務で起こりうる危険を安全な形で体験することで安全意識を高めようという内容でした。体験項目は、補助ロープ落下衝撃再現・地上墜落再現・吊り上げ時ワイヤー挟まれ再現・低位置墜落体験・安全帯ぶら下がり体験・低圧感電体験・高圧地絡体験・高圧短絡体験・高圧感電再現等、様々でした。



低圧感電体験の様子

地上墜落再現では成人男性を模したマネキンを4mの高さに配置し、その高さから落下するとどうなるのか再現していました。落下させるとマネキンは頭部を下にして落ちていき、鈍い音を立てて地面に接触し頭部からヘルメットが外れて元々いた高さに戻る勢いで跳ね上がり、これももし人だったらと思うとぞっとします。

低圧感電体験では低圧手袋を着用し、活きている電線を2本同時にニッパで切り短絡させるといった実際の作業でも多発している方法での体験でした。電線をニッパで切ると物凄い量の火花が発生しました。取り出してみると、ニッパの刃先には穴があいておりとても使える状態ではありませんでした。

他にも様々な体験をしましたがどれも日常の業務で起こり得ることです。しかしこれらは危険を察知し、準備を行うことで防ぐことができますと思います。私は今回の体験で感じた怖さを忘れず常に緊張感を持って仕事に臨みたいと思いました。

最後になりますが、大変貴重な体験をさせていただいた、発変電工事技術研究会関係者の方々にこの場を借りて御礼申し上げます。

第2技術部 今枝 貴一郎

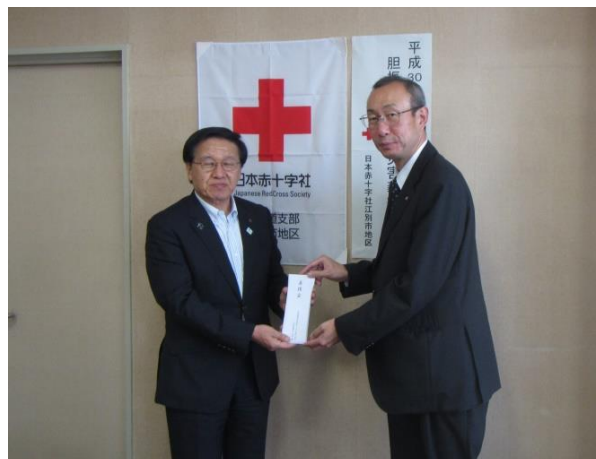
災害義援金

9月6日に発生しました北海道胆振東部地震により被災された皆様方に、謹んでお見舞い申し上げます。

皆様の安全を心よりお祈り申し上げます。

弊社は9月14日に心ばかりのお見舞いではありますが、江別市役所を通じて災害義援金をお送りしております。

一日も早い復興がなされることを切に願っております。





第2技術部紹介



2011年3月の東日本大震災以降電力業界には非常に厳しい風が吹き、電気事業法改正による電力小売全面自由化が2016年4月から実施され、2020年4月には発送電分離（法的分離）が行われます。

弊社のお客様である北海道電力株式会社殿も2020年の発送電分離に備えて本年4月から送配電部門の社内分社化が実施されました。その様な世の中の動向を鑑み、弊社の組織においても従来ひとつの部署であった「技術部」を、主に送配電の業務を行う「第1技術部」と、主に発電の業務を行う「第2技術部」の二つに分けました。これにより、お客様のご要望に応え、満足いただける安定した品質の製品とサービスを、責任をもって提供させていただくことに加え、現場対応の迅速性、提案型営業の強化が細やかに行きわたることを願っての組織変更と考えています。

第2技術部の業務は、火力発電所の制御回路修繕、装置保守点検、保護継電器試験、装置の設計・施工、水力発電所のキュービクル、制御装置（所内盤、D型制御装置、下流警報装置等）の設計・施工・保守点検、取水堰（ダム）の取水ゲート自動制御装置、水位計測装置、情報監視装置等の設計・施工・保守点検、公共工事では、北海道企業局殿（発電所、工業用水）の制御装置、監視装置の設計・施工、装置保守点検、北海道立林産試験場殿の中央監視制御装置保守点検、札幌市冬季道路交通情報システムの内「マルチセンサー」の保守点検・整備業務、JA殿関連では、麦作センター麦荷受入システム、澱粉工場澱源馬鈴薯受入システムのシステム変更、保守点検、監視装置、機械装置の制御盤などの設計・施工と多岐にわたっております。

第2技術部の構成員は現在15名で、50歳代のベテランと20歳代の若手が多く、世代間のギャップも大きいと感じていますが、チームワークで世代ギャップを埋めお客様に満足して頂ける製品やサービスを提供することを目標にして、北海道電気技術サービス株式会社の「第2技術部」が皆様にご愛顧賜りますよう努力いたしますので、これからもよろしくお願い申し上げます。

以下、「第2技術部」メンバーからの一言を添えて第2技術部の紹介とさせていただきます。

第2技術部 田中 勝

丸山 晃：第2技術部では、課長という役職で部長と共に部内をまとめております。会社全体もそうですが、ベテランと若手に分かれ中間の社員が少ないという構成になっており、技術継承が当面の課題です。ベテランの人には経験を活かして自由に動いてもらい、若手の指導をしてもらうとともに、若手には失敗を恐れず何にでも挑戦できるような雰囲気作りをしていきたいと思っています。私も、もうすぐ定年を迎えることもあり、若手に少しでも仕事のやりがいを感じてもらうことで成長を促し、もうあなたは必要ないと言われて引退するのが理想です。

榎波 正樹：自分の会社生活も終わりが見えてきていますが、もう一花咲かせて有終の美を飾れるようにと思っています。若手の諸君、覚悟しておいてください。

岩山 幸広：弊社では、昨年度まで火力・水力部門を専門に行う部署がありませんでした。今後は専門部署を設置し、きめ細かい対応ができると思っています。部員一致団結して邁進します。

井澤 賢治：ここ数年は火力関係の現場に出没しております。体積が大きいので遠くからでも判ります。

石川裕一郎：私は主に発電所における設備のハード設計・ソフト設計・現地工事まで一連の仕事を行っています。大変なことも多いですが、やりがいのある仕事だと思います。

豊岡 康裕：定年を過ぎて、未だに工事を担当しておりますが、さて、後何年動けるでしょうか。動けるうちは、使ってください。

綿貫 均：最近水力発電所での作業をメインに行っています。私も、いよいよ定年が近づいてきました。私がやってきた仕事を少しでも若手に継承出来ればと考えています。

永金 良則：私は主に現場作業に従事しています。気持ちはまだまだ若手のつもりですが、小さい文字が見えにくくなってきました。この若手とベテランが入り混じった曲者ぞろいの第2技術部を盛り上げて行きたいです。

山根 脩平：私はシステム開発を主な仕事としており、自分の仕事が誇れるほどの実力をこの部を通して身につけていきたいです。

折出 卓弥：様々な分野の仕事に取り組んで、技術者として成長できる様精一杯頑張らせていただきます。

南 宏輝：最近火力関係の仕事が多いです。まだまだ人に使われる存在ですが、頑張っていこうと思います。

小林 勇毅：現在の業務は東芝プラントシステム株式会社、計算機システムグループの元、石狩湾新港火力発電所1号機着火に向け、発電設備の自動化システム試験対応などを行っています。分からないことだらけですが、滅多に経験出来ることではないと思いますので、少しでも多くの知識を得たいと考えています。

棟方 淳貴：発電関係の様々な仕事に関わることができ、学べることが多い職場です。

今枝貴一朗：出来ることよりも出来ないことの方が多いのでこれからもっと頑張りたいです。

(新人)



上段左から：今枝・棟方・折出・山根・綿貫・石川・南・井澤

下段左から：岩山・丸山・田中・榎波・豊岡



編集後記

朝晩めっきり涼しくなって参りました。この時期になるといつストーブを点けようか悩みます。

ストーブといえば、昨年ストーブを点けようとしたところ火が点かなくて管理人を呼びました。原因は不明で、修理するのに1週間ほどかかり管理人から灯油ストーブを借りました。

学生のころから数えると3回引っ越しをしています。その3回ともストーブが急に点かなくなって管理人を呼んでいます。ストーブの掃除はきちんとしているつもりなので自分に非はないと思いたいです。

皆様の家のストーブは大丈夫でしょうか？私の家のストーブのように急に止まるかもしれませんので気を付けてくださいね！

私は昨年以上に念入りに掃除をして、ストーブのご機嫌を取り、冬に向けて備えたいと思います。

最後になりますが、今年も残り少なくなってきました。皆様が健康で過ごされますようお祈り申し上げます。

総務課 福田 未幸



ESC 情報NO. 147 秋季号



発行所 北海道電気技術サービス株式会社

〒069-0832

北海道江別市西野幌120-8

TEL(011)384-8888 FAX(011)384-8889

<http://www.hesc.co.jp/> e-mail:hesc@hesc.co.jp

発行者 向井 隆

編集者 総務課